

疑われた部位のみに集積を認めた。これら 2 例の違いは腫瘍の悪性度に関係するものであらうと思われた。なお ^{181}I -MIBG, ^{67}Ga は病巣に全く集積を示さなかった。

9. クエン酸ガリウムシンチグラフィにおける肝の集積変化の検討

小林 英敏 田中 孝二

(県立多治見病院・放)

佐久間貞行

(名古屋大・放)

過去 3 年 6 か月間に 2 回以上 ^{67}Ga シンチグラフィを施行した 113 例中に 22 例の肝不描出例、3 例の肝描出増加例を経験した。全例が悪性腫瘍例であった。従来の報告に比較して高頻度であり、とくに悪性リンパ腫症例の 41%、肺癌症例の 20% に肝不描出例を認めた。原因としては、シンチ 1 か月以内の抗癌剤投与によるものと考えられるものが多かった。しかし放射線治療のみで治療した 4 例にも肝不描出を認めた。3 例の肝描出増加例は、1 例の腎毒性薬剤の使用と全例の抗癌剤の長期の使用があった。肝への集積に変化をきたした症例の予後は悪かった。軽微な肝への集積の変化は、予期されているよりもはるかに高頻度に起きていると推察された。悪性腫瘍の診断に際しては、 ^{67}Ga シンチグラフィは、繰り返し利用するものであり、その診断にさいしてはシンチ施行前の治療経過を詳細に知っておくことが必要であると考えられた。

10. 肺癌における核医学画像診断の意義

仙田 宏平 中条 正雄 嶋田 博
安江 森祐 辻 明 伊藤 茂樹

(国立名古屋病院・放)

胸部悪性腫瘍に対する核医学画像診断の意義を X 線 CT など他の画像診断と比較して検討した。対象は組織診断の確定した肺癌 134 例とそのほか悪性腫瘍 38 例の計 172 症例であった。これら症例の全例に ^{67}Ga -citrate による腫瘍シンチが、また大多数に肝および骨シンチが施行された。

腫瘍シンチは遠隔転移の診断あるいは治療後の経過観察に有用であり、ECT が縦隔リンパ節転移と胸膜浸潤の診断に有効であった。肺癌原発巣の腫瘍シンチ陽性率

は他の組織型と比べて腺癌で 73.2% と低かった。骨シンチは遠隔骨転移あるいは胸郭浸潤の診断に有用であり、後者には ECT が有効であった。また、RN アンギオは上大静脈症候群および肺灌流異常の評価に有用性が高かった。しかし、肝および骨シンチの意義は低かった。

11. $^{99\text{m}}\text{Tc}$ -PMT-Scan にて集積を示した転移性肝癌の 2 症例

一柳 健次 木水 潔 川畑 鈴佳

(福井県立病院・放)

小沢ふじ子 幸田 裕子 (同・RI 室)

油野 民雄 久田 欣一 (金沢大・核)

$^{99\text{m}}\text{Tc}$ -PMT は、原発性肝癌に高い集積を示し肝腫瘍の質的診断に有用であることが知られている。しかし今回われわれは、転移性肝癌に本剤が集積を示した 2 例を経験したので報告する。

1 例目は結腸癌の単発肝転移であり、2 例目は膀胱癌の多発性肝転移であった前者は手術にて、後者は剖検にて転移であることが確認された。

12. $^{99\text{m}}\text{Tc}$ -フチン酸肝シンチグラムで区域性の陽性像を呈した脂肪肝の 2 症例

井上 明美 今枝 孟義 飯沼 元
曾根 康博 関 松蔵 鈴木 雅雄

土井 偉蒼 (岐阜大・放)

症例 1: 62 歳男性、易疲労感を主訴に来院、検査成績で軽度肝機能障害を認めた。U.S. で bright liver と、 S_2 に tumor 様に残存した low echoic area を認めた。CT では S_2 を除いて low density であり、肝脾 CT 値の逆転をみた。比較的 high density の S_2 も CT 値の逆転はみられ、脂肪浸潤は及んでいると思われた。SPECT 像で S_2 に対応して hot spot を認めた。症例 2: 66 歳女性、ドック診察、CT で右葉全体に low density area を認め、SPECT 像で左葉に hot spot を認めた。以上示した 2 症例は、従来の肝シンチグラムでは hot spot は明らかでなかったが、SPECT 像では、脂肪浸潤の軽度の領域に区域性の hot spot を認めた。区域性脂肪肝の好発部位として S_4 , S_8 および胆のう床近傍の S_5 があげられているが、これは今回の症例とも一致していた。